

自動車リサイクルの流れ



裏側には...



整備工場の織田工場長に、下から自動車を見せてもらいました

整備工場で修理や点検

ガラス張りのショールームの裏側には、何と整備工場がありました。修理や点検をこまめに行い、長く乗れる自動車にすることも大事な役割です。リフトで持ち上げられた自動車を下から見上げたこども記者からは、「わあ!」と驚きの声。工場内では出るごみは一般ごみ、廃プラスチック類、廃金属など細かく分けられ、ここでも分別が徹底されていました。

毎小こども記者の目

原田眞理
記者(小6)

使用済みの自動車1台からとれる鉄が、400~500kgにもなると聞き、ビックリしました。自動車1台をリサイクルしていろいろな物が作れるなんてすごいと思いました。

鈴木圭樹
記者(小4)

自動車にも家電品と同じようにリサイクル券があり、最初に買った人が負担するのかと聞いていましたが、車の最後の持ち主がお金を負担すると知って驚きました。

武本奈津子
記者(小3)

リサイクル料金というものを初めて知りました。自動車は買うときも捨てるときもお金がかかるんだと分かり、勉強になりました。

次回は
自動車生産の
現場を訪ねます。



協力・一般社団法人 日本自動車販売協会連合会

JARC 公益財団法人
自動車リサイクル促進センター
Japan Automobile Recycling Promotion Center / JARC

「自動車リサイクル」を学べる動画が見られるよ!

<http://www.jarc.or.jp/>



毎小こども記者

自動車リサイクルの秘密を探る! ④自動車販売編

ショールームでは、斎藤店長が「自動車によってリサイクル料金は違うんですよ」と説明してくれました。エアバッグやエアコンが付いているか、どんな素材が使われているか、リサイクルに配慮されているかによって、差があるんです。「普通車」で6000円から1万8000円、高級車だと幅があります。「店長、高級車だからリサイクル料金も高い、ということではないそうです。どの自動車もリサイクルしやすい素材を使っているかなどの情報

車ごとに違う料金

リサイクルがしやすいほど低額

をお客さんに伝えることも、販売店の大事な役割です。子ども記者たちは本物のリサイクル券を見せてもらいました。用紙は黄緑色です。一番上のA券は「預託証明書」という名前で、これが「リサイクル券」です。エアバッグやフロン処理にいくらかかるかなどが書かれています。その下のB券は「使用済自動車引取証明書」です。車を処分するために業者が引き取ったことを証明する書類です。

これが証明書



リサイクル券がつながっている書類を手に取り、何が書いてあるかみんなで読んでみました

自動車販売店を取材

東京トヨペット 芝浦店

シリーズ4回目は、埼玉県県の6年生の原田眞理記者、栃木県の4年生、鈴木圭樹記者、東京都の3年生、武本奈津子記者の3人が、東京都港区にある自動車販売店「東京トヨペット 芝浦店」をたずねました。



東京トヨペットのショールームには、ピカピカのクラウンが展示されていました。右から、武本奈津子記者、鈴木圭樹記者、原田眞理記者、東京トヨペット・芝浦店の店長

東京トヨペットは、都内に96の拠点を構える大手自動車販売会社です。出迎えてくれた鈴木さんが「新車」を売るだけでなく、お客さんから引き取った車を「中古車」として別のお客さんに販売したり、解体業者に引き渡

したもしています」と教えてくれました。自動車を売る時に、リサイクルの仕組みをお客さんに説明するのも仕事です。

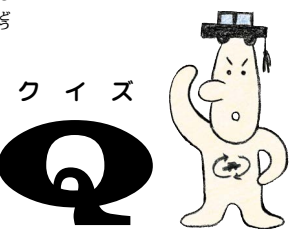
「2005年に自動車リサイクル法が施行されてから、自動車を処分する時にもリサイクル料金がいるようになった」

「2005年に自動車リサイクル法が施行されてから、自動車を処分する時にもリサイクル料金がいるようになった」

「2005年に自動車リサイクル法が施行されてから、自動車を処分する時にもリサイクル料金がいるようになった」

新車から廃車まで

お客さんとリサイクルをつなぐ



どんな自動車でもリサイクル料金は同じだ。○か×か?

クイズ